

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4070600517		
法人名	社会福祉法人 年長者の里		
事業所名	グループホーム 八幡		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡東区大蔵3丁目2-1 (電話) 093-652-6800		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年8月28日	評価確定日	平成21年10月16日

【情報提供票より】(平成21年8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 13.7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り		
	4 階建ての		3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	共同水道光熱費15,000円	
敷金	有(400,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(600,000円) 5,000 / 月を家賃に充当	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (8月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たつのおとしごクリニック・新日鐵八幡記念病院・藤崎歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

歴史ある社会福祉法人を母体として、豊かな自然に恵まれた大蔵地区に「グループホーム 八幡」はある。広大な敷地の中に、福祉・医療の複合施設が多様に展開されており、「ものわずれ外来」協力医療機関が併設されているなど、入居者・家族の安心の拠り所としての環境が整備されている。年間研修計画による職員の質の確保に取り組み、また第三者によるオンブズマン委員会の設置により、入居者・家族の意見をサービスの向上に反映させている。日常的な外出に積極的に取り組み、また個別の外出(故郷への旅行・馴染みの店等)や外食にも、家族やボランティア、系列法人との連携により、柔軟に対応している。法人としてのスケールメリットを活かし、地域における福祉拠点としての役割を担いながら、今後の新たな展開が楽しいグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価結果を職員や運営推進会議にて報告し、ホームの入口には自己評価・外部評価を掲示し、閲覧可能にしている。前回評価の課題として指摘のあった、医療連携の強化や看取りの指針について職員会議で話し合い、看護師との記録の共有や看取りの指針が作成されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニットのリーダーが中心となり、職員の意見をまとめている。管理者は赴任した直後のことであり新鮮な目線で評価に臨んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、入居者・家族・町内会長・統括支援センター職員等の参加により、2ヶ月に1回定期開催されている。生活状況や行事等の報告が行なわれ、意見交換や助言を得ている。災害対策や独居高齢者についても話し合いが行なわれ、地域と行政との橋渡しの役割も担っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	ホームの玄関に「意見箱」を設置している。法人として第三者機関である「福祉オンブズマン委員会」を設置しており、意見や苦情に対応する体制が確立している。家族とのコミュニケーションの機会を大切にし、意見や苦情を受け止め運営に反映させるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	法人として開催される「納涼祭」には、千人を超える地域住民や関係者の参加があり、盛況に開催されている。中学生や高校生の職場体験の受け入れが行なわれており、また保育園児や小学生とのふれあいの機会も多く、入居者の一番の楽しみとなっている。地域行事や学校・保育園行事に参加し、積極的に交流を育んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	法人の基本理念に基づき、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念が創られている。6項目の具体的な内容を掲げており、その中に「地域活動に参加・交流を通じて、地域との関係を目指します。」と明示されている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	職員間で作成された理念を、見やすい場所に掲示している。日々のケアの中で、常に理念を念頭においた支援に努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	法人として開催される「納涼祭」には、千人を超える地域住民や関係者の参加が有り、盛況に開催されている。中学生や高校生の職場体験の受け入れが行なわれており、また保育園児や小学生とのふれあいの機会も多く、入居者の一番の楽しみとなっている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価及び評価結果については、運営推進会議にて報告している。またホーム入り口に自己評価・評価結果を掲示し、自由に閲覧することができる。評価結果は職員会議で話し合い、改善に向けての検討が行なわれている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、入居者・家族・町内会長・統括支援センター職員等の参加により、2ヶ月に1回定期開催されている。生活状況や行事等の報告が行なわれ、意見交換や助言を得ている。災害対策や独居高齢者についても話し合いが行なわれ、地域と行政との橋渡しの役割も担っている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 八幡

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	地域包括支援センターや区役所・市役所に行く場合には、入居者の方々と同行している。また「市民後見人」養成研修の実習場所として協力している。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	法人として権利擁護に関する制度の研修会を開催している。また法人内で実際に制度を活用している事業所との連携により、意見交換や情報の共有が図られている。「市民後見人」の実習場所として取材を受け放映されたこともあり、職員の認識を高める機会ともなっている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月、担当者が入居者の日々の状況を手紙で送付している。暮らしがわかりがわかと好評である。その他、生活上の変化や身体の変化があれば、居室担当者・ケアマネジャーが中心となり随時電話連絡を取っている。		
		事業所での利用者の暮らしや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	ホームの玄関に「意見箱」を設置している。法人として第三者機関である「福祉オンブズマン委員会」を設置しており、意見や苦情に対応する体制が確立している。家族とのコミュニケーションの機会を大切に、意見や苦情を受け止め運営に反映させるように努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	今年度は法人内でのグループホーム新規開設にともない、通常よりも多く異動が行われており、入居者・家族には十分に説明を行っている。介護計画において個々のケア方法を明記し、サービスの低下とならないよう努めている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、ヘルパー2級以上を必須条件としているが、年齢・性別・経験等による排除はしていない。高齢者と接することが好きな方や人柄を重視している。資格取得を目指したり、仕事のやりがいを見出せるよう配慮している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 八幡

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	法人として採用時に人権尊重に関する研修を実施している。高齢者虐待防止や身体拘束についても、年間計画の中に位置づけ実施している。また「言葉」についての研修に参加し、伝達研修も行なわれている。法人として、またホームとしても理念の中で人権についてふれており、その実践に努めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	年間を通して、法人内研修・外部研修・グループホーム内の研修を計画して、職員へ通達している。個人的にもスキルアップを支援し、新採用者には個人にあったOJTを図り、経験ある先輩者が担当している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同業者の訪問・問い合わせには積極的に対応している。他のグループホームに移った職員からも情報を得ている。入居者と共に他のグループホームに出掛け交流を図っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	併設のデイサービスやケアハウスからの入居が多い。馴染みの関係づくりのためにも、デイサービスから直接グループホームに見学に来てもらったり、職員が訪問を重ねている。早期の情報収集を行ない、入居の前日までに計画を作成し、安心して生活が送れるよう支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の方々とのコミュニケーションを大切に、信頼関係の構築に努めている。年長者である入居者の方々の、経験から会得された知恵や考え方に納得させられる事が多い。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 八幡

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	ユニットにより異なるが、一部センター方式を参考にしながらアセスメントが行なわれている。本人や家族との会話、表情や行動等から思いや意向の把握に努め、「本人本位」のケアの実践に努めている。		アセスメント情報の更新や記録の工夫により、一人ひとりの全体像に更に近づき、また新規採用者や異動の職員にも情報を共有でき、入居者を理解し共感に結びつける事ができると考えます。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者・家族の意向を大切に、担当者の意見や看護師のアドバイスも反映しながら、具体的に行動できるように作成されている。日課表もその人らしさが表れており、個別性のある計画が作成されている。行動計画と評価記録がわかりやすく記載されており、計画にあった支援となるよう工夫がある。今後はアセスメントの充実により、多面的なアプローチにも期待したい。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	基本的に3ヶ月毎に計画の検討が行なわれている。期間中に入退院等の状態変化があった場合は、医師・看護師の意見を反映して見直しを行なっている。また家族来訪時を利用して、臨時の担当者会議を開き、計画に反映させている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	帰宅願望がある入居者の方は、散歩がてら1階のデイサービスの職員にも顔馴染みになってもらっており、1人で出かけても何処かで職員が声をかけている。グループ法人との連携により、故郷への旅行の実現に柔軟に対応するなど、法人としてのスケールメリットを活用した支援がある。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居前から併設する「たつのおとしごクリニック」をかかりつけ医としている方が多い。認知症の専門医であり、週1回の往診がある。診察結果や処方の変更についても記録があり、全職員の共有が図られている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 八幡

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	「看取りの指針」が作成されている。重度化や終末期に向けて、本人や家族の意向を踏まえ、主治医・家族との話し合いを重ねている。「看取りの指針」に基づき、医師や看護師また職員の意見を入れ方針を定め、共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	マナーアップ研修は必ず職員全員が受講している。言葉による虐待の伝達講習も踏まえ言葉には注意し、その人にあった声かけを心掛けている。個人情報の取り扱いについては、法令遵守を徹底している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	自己決定を尊重し、本人本位の支援となるよう可能な限り支援している。個々の起床時間にあわせて朝食の対応は柔軟に行う等、ペースにあわせた暮らしの支援に努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	本格的な和風のお膳にて陶器の食器、専用の茶碗、箸を用いている。配膳・後片付け・台拭きなどに参加があり、時にはちらし寿司を職員とともに作ることもある。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的には週3回の入浴日としているが、希望により毎日の入浴にも対応している。9時から19時の時間帯で準備し、散歩後のシャワーや突発的な場合にも、随時対応している。近くの温泉施設で入浴を楽しむこともある。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 八幡

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	米とぎをする方・台拭きをする方・花の水やりをする方・リハビリを兼ねたワゴン押しをする方など、それぞれの役割づくりが行なわれている。趣味活動や外出への支援も積極的に支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	公用にて行政機関に出向く際には、入居者も同行している。状況により、敷地内外の散歩や買い物、ドライブ等に出掛けている。天候不良時には、施設内を散歩している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は鍵をかけないケアを実践している。見守りを徹底し、また階下の併設事業所との連携により、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	スプリンクラーが設置されている。消防署や防災システム業者の協力により、建物ごとに年3回の昼夜を想定した訓練が行なわれている。また複合施設全体での協力体制も確立されており心強い。運営推進会議において災害対策を報告し、また地域との連絡体制を構築している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	管理栄養士による献立が作成されており、各個人の食事量・水分量は把握され体温表に記録されている。定期的な検査により健康状態のチェックがされており、必要時にはカロリー補助食が提供されている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 八幡

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間には対面式のキッチンが設置され、ソファや畳スペースが配置されている。書画や手づくり作品等がさりげなく飾られており、落ち着いた雰囲気を醸し出している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	洗面台と押し入れが備え付けられた各居室は、仏壇や家具などが持ち込まれており、生活感のある、個性を感じる部屋づくりがなされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			